

JAMシニアクラブ第3回幹事会を開催

JAMシニアクラブは、7月17日JAM本部で三役会議と第3回幹事会を開催し、7月16日までの活動報告及び9月5日の定期総会に提案する2019年度活動方針案、予算案、田中ひさや政策実現活動の推進について協議・確認した。また、残念ながらJAM組合員2名が犠牲となった7月上旬の「西日本豪雨災害」に対する救援カンパを現役と連携しながら実施することを確認した。

幹事会は、豊泉副会長の挨拶に始まり大山会長が座長として議事を進めた。大山会長は退職者連合定期総会に出席した野党党首挨拶を引用し、「安倍首相は首相席からヤジを飛ばしまくり、麻生大臣はヤジと居眠りをし、野党の意見を聞く機会すらつくらずにカジノ法案を優先的に審議している」と安倍政権の国会運営のひどさを指摘。そのうえで「カジノ法案は反社会的勢力が日本中に蔓延させようと手ぐすねを引いて待っているとんでもない法律だ。実施させないよう反対して行く」と述べ、75歳以上の医療費の窓口負担を2割に引き上げようとする政府の考えにも「シニアの医療費は絶対額で現役の5倍かかっている。これでは医者にかかれなくなる」と反対の意向を示した。

椎木副書記長はJAM加盟の組合員が犠牲になり単組も大きな被害に遭った西日本豪雨について三役の現地入り、JAM山陽から水の輸送、本部専従者の派遣など「現地からの要請にしっかりと応えて行く」と語った。また、田中ひさや候補予定者所属を「国民民主党とすることで大会議案を準備している」とし、「日常的な連携、中小政策を受け入れられることが党との間で明確になったこと、金属労協と一体となって取り組んでいけることで判断した」と政党問題への考え方を明確にした。

報告事項ではシニア会員登録数が前年比147人減少した7638人で減少に歯止めがかかっていない。政策制度学習会補助金は京都・岐阜・愛知・九州山口・神奈川・埼玉の6地方に給付。シニア共済は加入者が562人増え2392口増加、給付額は1157件・2億136万8500円と2億円を超えた。

また、活動方針と政策実現活動の推進ではこれまでの議論に基づいた加筆・修正を確認、新たに憲法9条改悪反対の具体的な行動の提起を退職者連合に要請すること、政策実現の応援者カードはシニアが記入し易いように工夫することとした。